



明峰

令和7年10月16日

第14号

校長 岡野利男

前号の発行から2週間以上も空いてしまいました。「楽しみにしています。」と声をかけてくださる保護者の方もいらっしゃるようです。申し訳ありません。

諫早市制施行20周年記念式典 「トークセッション」から

子供の頃に、「これが好き」「こんなことをやりたい」という夢や憧れのようなものをたくさんもっておくことです。やがて、それは、私たちの体の中にウイルスのように増殖していき、何らかの機会に発症するように思うのですよ。

「風当たりも強く、リスクも大きいけれど、向かい風に乘って空高く遠く飛んでいく」「飛ばずに、下に広がる平原を安全に進んでいく」か、そのどちらを選択するかは人それぞれです。どちらが尊いということでもない。

ただ、時間がもったいないですよ。あなたの人生、好きなことを思い切り楽しむこと。そうして自分の好きなように生きていくこと、それが大切だと思います。

私のメモが追いつかず、ご本人の言葉通りとはなっていない箇所がいくつもあるかと思いますが、そこはご容赦願います。

上の文章は、去る10月4日(土)の午後、諫早文化会館で行われた「市制20周年記念式典」におけるトークセッションで、レイコ・クルック・西岡さんが話された内容です。西岡さんは、世界を舞台として活躍される造形作家で御年90歳。幼少期を諫早市小野島町で過ごされているため、ご自分のことを『自称ムツゴロウジェンヌです。』とおっしゃっていました。西岡さんのお話の内容はもとより、深みのあるお声、優しい話し方、巧みな間の取り方、柔らかな佇まい、そのすべてがとても素敵でした。聴衆の誰しもが西岡さんの話に心を奪われたのではないかと思います。

もちろん、西岡さんと共に登壇されたオリンピックメダリストである内村航平さん、「ファンタジスタ」が代表作である漫画家の草場道輝さん、そして大久保潔重諫早市長のお話も大変素敵でした。それぞれの方のお話で印象に残ったことを紹介します。

内村航平さんのお話から

若い時にしかない有り余るパワーを大切にしたいです。多少無理しても大丈夫!! 今、夢中になっていることに全力投球すること。一歩先、限界を突破する意気込みが大切です。それから、長崎の若者として、平和について考える責任もあると思っています。被爆80年の今年、そのことをさらに強く思いました。

草場道輝さんのお話から

自分の漫画を「全国の人が見ているんだろうな」と思うと、そのプレッシャーから1週間何も手につかず、ボロボロになってしまったことがありました。「描けません」と編集に伝えたら、「いいよ。代わりの方はいるから。」と言われる始末。

ただ、とりあえず開き直すことはできた。一旦、立止まることが必要な時はあると思っています。

大久保潔重市長のお話から

本明川沿いの諫早の原風景が大好きです。

自分は、家系的な基盤があって政治の世界に入ったわけではありません。小さい頃の日本の首相である田中角栄さんへの憧れがあってこの世界に飛び込みました。妻からは「やりたくて政治の仕事をしているのだから、それに愚痴を言われても困ります。」という応援をもらっているところです。

さらに、コーディネーターをお務めになった柴田美保子さん(故 市川森一さんの奥様)の進行がとても素敵で、本当に贅沢な時間でした。なお、本トークセッションの様子は、諫早市公式YouTubeに掲載される予定とのこと。ぜひ、ご視聴ください。

〈 明峰中生へ ボランティア犬塚様より 〉

